

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



福勇分教会

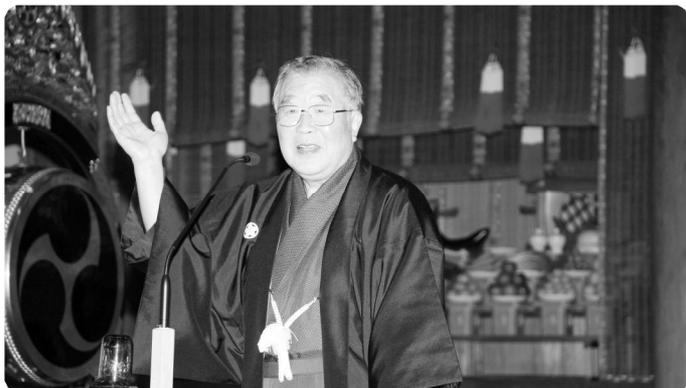
昭和10年12月3日 福勇宣教所設立
昭和17年3月11日 御鎮座奉告祭

立教181年
12月号

海外伝道講習会 開催

11月月次祭

海外部



この道が、「世界たすけの道」だということを熱意をもってお話くださる飯降先生

海外部(上原志郎部長)は11月21日、飯降政彦先生(本部長・元海外部長)を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催。役員・部内教会長・よ・ふ・ば・く・信者ら多数が受講した。講話要旨は次の通り。

去る10月28日、天理教青年会100周年記念総会の席上、青年会長・中山大亮様は、ご自身の常日頃思っておられることでしょうか、それを「青年会長の告示」ということで話された。非常に元氣、前向きで、それがありありと現われている、そういう話しぶりです。その中で3つの角目をもって話された。

まず、「自主性」——自主性というのは大事な言葉で、今までのお道の中では余りそういうことは言われなかった。「無条件に理の親に従っていけ」というような風潮が強かった。それを自主性、「自分の責任の元に信仰せよ」「したらいい」という取り組み。

次に「楽しむ」——「信仰を楽しもう」ということを仰った。これもご自身の体験から、「何か、教会に生まれ育ったからしなくてはならないような義務的な信仰をしても、あまり楽しくない」。そうではなくて「信仰は楽しむんだ」——そういうキーワードで話された。

最後は「世界助け」——これは本来から青年会の看板であるべきもの。

私はそのお話しを聞きながら、50年前の50周年の記念総会を振り返った。

当時は教祖80年祭に向かって進んでいる最中。80年祭の5年前に、2代真柱様から『諭達第二号』が発布され、「神がこの屋敷へ天下つて七十五年たてば、日本あらあらずます。それから先は、世界隅から隅まで天理王命の名を流す」という言葉を引用された。

戦前、先輩たちが営々と積み重ねてきた海外伝道の、ある意味での成果が戦争でとん挫した。「いよいよこの時に再出発するんだ」。今こそ、教団として、海外伝道を取り上げて、海外伝道を力強く推し進めていく時にしたい——これが諭達2号の一番中心にあった。

「世界たすけを進めるんだ」・「海外伝道を推し進めるんだ」——当時は日本全体の流れが、それに非常にふさわしかった。1964年、東京オリンピック、1970年には大阪万博があった。この大阪万博には、お道の教会も、「万博行って参拝しよう」・「参拝して万博行こう」ということで、たくさんの方々をおちばへお連れする機会となったことは、皆さんの記憶にも残っているだろう。

2代真柱様は、青年会総会の挨拶の中で、「青年は、すべからく海外へ行

け。国内のお道は年寄りに任せておけ。」というようにことを仰った。だから、教祖50年祭というのは、特に、青年会では、「海外伝道」にみんなの意識が向くように、具体的なプロジェクトを組んで、色々なことを行なった。

その中に、私は、「天理教」・「陽気ぐらし」・「一列兄弟」といった看板をつけた「あらし」という号車、イギリスからインドまで3万5千キロ、足掛け7ヶ月に渡って、車で、神名を流しながら、いろいろな所に行った。走っていると、「日の丸をつけたトヨタの珍しい車が来た」と、ワーッと人が集まってくる。その人たちに、天理教のパンフレットを配る。そういった活動をしてきた。

あれから50年経ったが、この50年で、人類は、世界の平和に向かって、一歩でも前進したかと考えてみると、前進どころか後退しているのではないか。その間、人類は何をしてきたのか。

——国連を中心に、どうすれば平和になるかという議論を重ねてきた。あれからしばらくして、世界宗教者平和会議が始まり、いろいろな宗教者が集って、どうすれば平和になるかの議論を

重ねてきた。——その中に、「どの宗教の祈りで平和になるか分からないが、とにかく、互いに平和に対する祈りを捧げよう」というのが、世界宗教者平和の祈りの核心だったと思う。

私はおちばへ帰ってから、一方では単立の大阪分教会長をしながら、まず青年会、それから海外伝道部長、それから表統領、天理大学学長と御命をいただいた。

天理大学では、学長が、「建学の元日の精神」を語るようになっていた。天理教にとって、一番大事な「立教宣言の文言」、その中で親神様は、「汝を助けたい」とも、「汝の家族を助けたい」とも、「お前の国をたすけたい」とも仰らなかつた。親神様は、「世界一列、全人類を助け上げたい」、そういう思いをお述べになった。天理教が、その立教の元一日から、目指している相手は世界の人々である。——だから天理大学があり、この大学は、最初は、語学を教えた。体育学部は、柔道もラグビーもホッケーも、みな、生かされている喜びを込めてスポーツに励み、そして、そういうことをもって、海外に推し進めていく。——天理大学では、

ありとあらゆるものが世界たすけにつながっている、ということと話した。天理大学の学生は、7割が天理教とは関係なく、3割が天理教と何らかの繋がりがあるという構成になっている。

天理教のことを全く知らない学生は、私の話を聞いて、『天理教というのには、三輪神社や橿原神宮のような宗教で、その宗教がたまたま大学を持つている』、それぐらいに思っていたが、今日の話を聞いて、『世界たすけの使命感を持った宗教である』ことが初めて分かった」というコメントをくれた。

又、教会の子弟に生まれ育った学生の中には、「天理教がそういう宗教とは知らなかつたので、お道をもっと勉強したい」と真面目にコメントする学生もいた。

私がここで言いたいのは、私たちは、「世界たすけ・陽気ぐらし世界建設」という使命を、一人ひとりが、最初から持っているはずだが、これを忘れるから、日々をボーッと生きるから、元気がなくなる。

教会のありさまは関係ない、「教祖

の大きな御理想、それが自分の心にあるかどうか」ということが問題なのだ。それを持つていけば、単独布教をしていても、ローンソでバイトをしていても、学校の先生をしていても、教祖の思いを自分の心に抱きながら日々を辿つていけば、元気が出るはずなのである。

お道の海外伝道は、教祖がお姿を隠されて5、6年後にはもう始まっている。明治25年には韓国に布教師が出る。29年には台湾伝道が始まった。それから、中国大陸・東南アジア・アメリカ・果てはイギリスまで、布教師が出て行った。

最近、話題になっている北方領土、樺太(サハリン)にも、30数ヶ所の教会があつたが、戦争でどん挫した。第二次世界大戦で日本はぺちゃんこ、海外布教の道も、ほとんど壊滅状態だった。

京城大教会は、海外で初めて大教会になった教会で、(今は京都にあるが)当時は現在のソウルにあつた。その韓国にいる教会長・上級教会長は、日本人であるがゆえに全員日本に引き揚げた。韓国の教友は、天理教が日本で発した宗教ゆえに、「お前たちは日本

人に魂を売った」と白い目で見られた。その中を、韓国の布教師たちは「何も『日本人だから』・『韓国人だから』とか、そういう区別・差別なしに、日本人の布教師たちは、私たちを助けてくれた。だから私は天理教に入った。それからもう一つ、天理教は何も日本人だけの宗教ではない。『世界を助けるために』と言っている。その天理教を韓国人の我々が信仰して、なぜ悪い。」と当局に喰つてかかつて布教した。

だから、私が学長になって間なしに、「日本から出発した宗教で、戦後ずっと根付いたのは天理教だけ」だと、釜山にある東西(トウソウ)大学の宗教学の先生から聞いた。その先生は、論文の中で「何故、天理教が韓国に残り、定着したか。それは、ただ単に『助かった、病気を助けられた、災難を解決してくれた』だけでは消えてしまう。『世界を助けるために』という一本の線が続いたからだ」と述べている。

メキシコへの布教伝道の道は、高根品子という24歳の女性から始まった。彼女が「身上を助けてくださいとお礼に何かご恩返ししたい」と言うと、(助けた)布教師が、「この天理教は、日本

の天理教ではない。世界の天理教だ。」
と言った。その話しを聞いて、彼女は、
「日本人のいない所で布教しよう」と
決心し、そこに舞い込んだ「メキシコ
で働いている日本人の奥さん募集」と
いう話に飛びついて、1922年、
写真結婚で渡墨し、布教を始めた。こ
れが元で、戦後、2代真柱様のメキシ
コ巡教を機に、メキシコ教会が誕生、
現在数ヶ所の教会ができています。

ブラジル伝道の道は、1929年、
南海大教会が「ブラジル布教に行く者
は手を挙げろ」と言って、大教会を挙
げてブラジルへ移民を送り出したのが
始まりで、初代伝道庁長・大竹忠次郎
先生もこの中に混じっておられた。こ
れが、今のあのすごい教勢あるブラジ
ルの道の元となった。

だから、この「世界たすけ」という
言葉は、本来なら、「それを信じるな
らば、すごいエネルギーが出る」言葉
なのである。——この「天理教の看板」
を色褪せさせては、天理教でなくなる。

「今の状態がいいか悪いか」、そんな
ことではなくて、「心がそつちに向い
ているかどうか」ということを問題に
して、私たちは信仰しなければならな
いと思う。

私が青年会委員長の時代、アメリカ
伝道庁でアメリカの青年会員とデイス
カッションをしたことがあった。そう
すると、出るわ出るわ、答えられない
ような質問が次々と出てくる。——「天
理教は『世界たすけ』というが、日本
に行かないとたすからないのか」・「ど
うして日本に行かないとおさづけをも
らえないのか」・「どうして、俺たちの
親はつくしはこびと言って、上級へ、
日本へお金を送るのか」・「どうして、
俺たちに、日本人と同じように日本語
でおつとめをやれという、そんなの無
理だ」・「なんで日本語がよく分からな
いと、まともに信仰できないのか」と
か「どうして教会系統ってあるの
か」・「色々な質問が飛び交った。

私も一生懸命に答えたが、皆、なか
なか納得してくれない。その時に助け
船が現われた。その方はずいぶん高齢
の方だったが、ご自身の子供さんの身
上から入信され、奥さんが日本人の、
非常に温厚なアメリカ人の布教所長さ
んだった。「まあ、そう言うな。そう
いうことは、一生懸命、おつとめをし
て、ひのきしんをして、教祖のことを
勉強していけば、段々と分かっていく

もんや、成人しだいに分かってくるよ」
と、こういうふうに言われる。
私が言っても納得しないが、そうい
う立場の人が話すと、皆、シーンとな
る。その時は助かったと思つたが、よ
く考えると、この布教所長さんはアメ
リカの若い連中にそういうふうにしたし
なめられたけれども、私たち日本人の
信仰者に対して、「あんた方、段々と
神様の思いがもつと分かってきたなら
ば、色々と思案することが出てきます
よ。だから今のお道の姿が絶対のもの
と思わないほうがいいよ」と、たしな
められていたのかなと思われた。

それがためには、最後の結論になり
ますが、「続くこと」が大事です。
いろいろな布教師が、「この道の信
仰を、その土地の人に伝えて行こう」
という思いを持ちながら、各教会から、
アメリカやブラジルに行かれた。

その方々が一番つらいのは、自分の
ことではない。自分が信じているこの
教え——「世界助けの道だ」と信じて
いるこの教え——を、自分の子どもた
ちが後を継がない。これが一番辛い。
だから、私は、30年ほど前に海外子
弟の親里練成会を始めた。この親里練

成会は、ハワイ・カナダ・アメリカを中
心とした英語圏の教会長・布教所長の
子弟をおちばへ呼んで、高校生の一
番難しい時期におちばで研修をする、そ
れも1・2日ではなく1ヶ月間。そし
て、先ず、おちばを好きになつてもら
い、冷静に自分たちの親のことを考え
てもらおう。それがテーマ。「親は一生
懸命なんだ」、だから、おちばで色々
な人たちの話しを聞きながら、仲間の
話しを聞きながら、「自分の親はそう
いうことでアメリカにいるんだ」・「そ
ういうことで、カナダで天理教の看板
を掲げているんだ」・「英語もろくに分
からない親が、それで苦労したん
だ」・「そういうことを分かっても
らう。それが分かれると、心の向きがパ
ツと変わる。

「続いてこそ道」と言う。世間でも
「継続は力なり」と言う。続いていく
から、問題が、少しずつ、教祖の思し
召しに近い形になつていけるんだと思
う。

今、あきらめたら駄目、「世界たす
け」という、そういう思いを心に持ち
続けながら、物事を見ていく、実行し
ていく、これが大切なことだと思
う。



詰所玄関にて記念撮影

「こかん様につづく会」
開催
 11月3・4日
女子青年

11月3、4の両日、天理でこかん様に続く会を開催させていただきました。

1日目、三昧田分教会を参拝、教祖がお生まれ、お育ちになられたお屋敷を見学させていただきました。本部参拝後は参加者全員で回廊拭きを行いました。よろづよ八首をうたいながらの回廊拭きはとても心勇めるものでし

た。

2日目、支部長様のお話を聞かせて頂き、「二元の理」を知ること、自らで信仰の元を知っていくこと、そして、なってくることを有難いと思うことの大切さを学ばせて頂きました。毎年、恒例の室内オリンピックを、担当の奥様方も交えてさせていただきました。笑いの絶えない時間となりました。

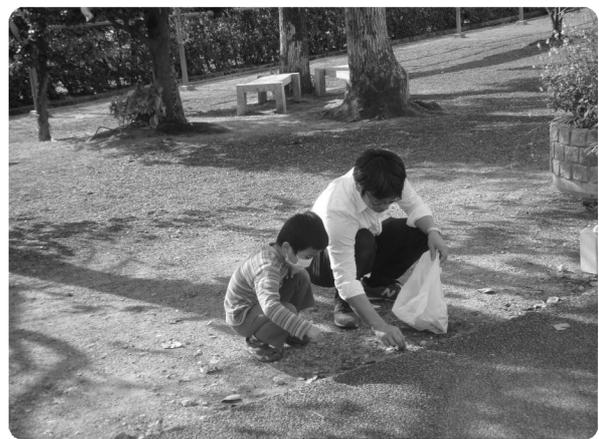
今回のこかん様に続く会は二日間、39人の参加となり、とても賑やかな会となりました。そして、来年の笠岡支部ご臨席総会、又、おちば開催の女子青年大会に向けて、一人でも多くの方に参加してもらえよう誓い合いました。
 (女子青年委員長 武内ゆり)

「別席
ひのきしん団参」実施
 11月25日
布教部

11月25日、恒例の別席ひのきしん団参が開催された。581人(初参拝者3人、初席12人、中席20人)の教友が東礼拝場に集い、おつとめを勤めた。その後、別席者は別席場、ひのきしん者は別席場西の広場に移動した。当日は快晴で



家族ぐるみでのおちばがえり



11月末とは思えない様な好天気

広場では陽気な日差しが降り注ぐ中、老若男女を問わず落ち葉集めのひのき

しんをした。日頃、本部に参拝する機会に恵まれない方々も、一堂に会する行事とあって、久しぶりの再会に顔をほころばせ、積もる話に花が咲く様子があちこちでみられた。

おちばへの伏せ込みとともに、笠岡につながる教友の良き交流の場ともなる別席ひのきしん団参に、今年も多くの協力をお借りしましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後もより意義のある行事になるよう努力します。よろしくお願ひ致します。
 (布教部副部長 佐藤真孝)

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽11月18日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

秋晴れの真つ青な空見上げつつ
 気分さわやか口笛をふく

▽12月9日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

眼帯を外すこの目にはつきりと
 医師の笑顔がとびこんでくる

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦人会	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会
	◆印は「天理教婦人会創立110周年」関連			
1	28 婦人会創立の日		27 年頭幹部会	
2	22 直轄委員部長・委員研修会			21 学生層育成者講習会
3			21 テッチャンシアター (親子参拝 推進)	3~9 学修 大学の部 10~12 学修 高校卒業生コース 28 春の学生おぢばがえり 直属アワー
4	19 本部 婦人会総会		30~1 笠岡むつみ鼓笛隊 合宿 1 笠岡団おつとめまなび総会 21 育成講習会 テッチャンシアター (親子参拝 推進)	28 おぢば管内新入生歓迎会
5	5/1~ ◆会員決起の集い 26 委員部長後継者講習会 (おぢば 開催)			
6	23 婦人会長様 御臨席総会	30 ひのきしん団参		
7	6 ◆会員決起の集い (笠岡大教会 会場) 7 こかん様に続く会		21 テッチャンシアター (親子参拝 推進)	
8	25 御臨席総会 御礼 別席団参		21~23 サマーキャンプ	9~15 学修 高校の部
9	~9/16 ◆会員決起の集い	1~24 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊入隊	21 テッチャンシアター (親子参拝 推進)	祭典講話(案) 1月 大教会長様 2月 ㊦学生層育成者講習会 3月 4月 ㊧育成講習会 5月 6月 7月 8月 9月 ㊨布教推進講習会 10月 大教会長様 11月 ㊩海外伝道講習会 12月
10	10/20~ ◆別席強調期間	27 本部青年会総会 あらきとつりよう入門塾 (詰所開催)		
11	3 本部 女子青年大会 ~11/30 ◆別席強調期間		未定 わかぎのつどい	
12		1 (笠岡分会総会 父親講座)	21 テッチャンシアター (親子参拝 推進)	
備考	・毎月2日 ひまわり会 例会 1月・8月はなし ・毎月3日 婦人会 例会 1月・8月はなし ・毎月20日 女子青年 伏せ込みひのきしん	◎有志ひのきしん隊(毎月)	◎教会おとまり会の実施 ◎テッチャンシアター (親子参拝) 3・4・7・9・12月の21日 祭典後	

◎よふぼく勉強会 毎月21日 午後1:15~2:00 (但し、大祭月、祭典講話が外部講師の月を除く)

立教 1 8 2 年(平成31年/2019年)

部会 月	全体行事 その他	ひのきしん	布 教 部	海 外 部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	5~15 本部食堂(西ブロック) 25~27 春季大祭詰所受入		
2	2~15 部内巡教 5~7 管内高校受験世話取り 25~26 教会長講習会(笠岡詰所) 27~1/1 管内高校受験世話取り	16~28 本部食堂(東ブロック)		
3	2~15 部内巡教 3 雅楽勉強会 28~29 修養科修了講習会			広島公園にをいがけ (英文パンフレット配布)
4	7 さくら祭	17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	7 アフリカ孤児支援バザー
5	中庭舞台設置 (6月23日婦人会長様ご臨席総会) 1 大教会長杯親睦スポーツ大会 4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(高屋ブロック)		
6	夏季 草刈り 28~29 修養科修了講習会			
7		16~31 本部食堂(島根ブロック)		
8	26~4 こどもおぢばがえり 30~31 雅楽講習会	26~5 こどもおぢばがえり詰所受入 前半:7/26昼~31昼 後半:7/31昼~8/5昼		7・8 英語講習会
9	1 若人のつどい 28~29 修養科修了講習会		1~30 布教推進強調月間 21 布教推進講習会(祭典後) 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	障子張り・庭木の剪定 4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(福山ブロック) 25~26 秋季大祭詰所受入		
11	23 別席ひのきしん団参			広島公園にをいがけ (英文パンフレット配布) 21 海外伝道講習会 (月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 22 年末大掃除 28 修養科修了講習会	27 詰所餅搗		
備 考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭当日朝	註:ブロックの区分けは 東:岡山県以東の直轄教会 とその部内教会 西:広島県以西の直轄教会 とその部内教会 上府:上下、府中市	◎おかえり講話 10月25日 ◎教会長・よふぼく勉強会 不定期開催(於:詰所)	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護により日々は結構に恙なく生活させて頂いております 特に今は紅葉も美しく目で楽しむ事が出来 又作物の実りは食欲を刺激し口で楽しむ事が出来る等して 普段にも増して喜びを感じさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます その喜び感謝の心のままに 日々は朝夕に御礼申し上げると共に 目前に迫りました別席ひのきしん団参に一人でも多くの人におちばに帰って頂けるよう にをいがけおたすけの上に精一杯努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は 此の教会の十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 御前には時折感じる寒さの中 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて十一月二十五日に別席ひのきしん団参をさせて頂きます この日他系統からも団参があり混雑も予想されますが 何卒行き帰りを含めて事故怪我等も無く 喜び心一杯にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます 又本日は祭典に引き続き海外伝道講習会を開催させて頂きます 「世界一列をたすけたい」との親神様の思いに少しでも応えさせて頂くべく 海外伝道をも視野に入れた人材の育成を図る所存でございます 更には又 今年もあと一ヶ月となりました 年頭に定めた心定めを改めて思い起こし 悔いの残らないよう精一杯人作りの上にも努め切らせて頂く所存でございます

何卒親神様には 今さえ良くば我さえ良くばの世の風潮に流されず 只一筋に親に凭れ切っておちばに真実を尽くす 皆の誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に不思議自由の御守護をお現し下さり 人々の心にかしものかりものの理が修まり強気強欲を無くし互いに助け合ってお望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

課題「天」

天 位

町田市

戸坂和子選

時空こえ天地をかける理の力

壮大な宇宙をご守護くださる親神様のお力を、感謝を込めて格調高く詠まれました。

と評されました。

30年12月号の『陽気』誌、「道柳」に選ばれた上記の俳句は、東悠分教会の前奥様の作品で「天位」に選ばれました。

各号に天位は1人、地位2人、人位2人、秀詠10人、準秀詠15人、新友3人、佳詠46人が掲載されます。

数多い応募の中から選ばれるのも名誉なことですが、東悠分教会前奥様は「天位」に選ばれること5度となるとのこと、実に例のないこと、誠におめでとございます。

編集部

大教会だより

◎教会长資格検定講習会修了者

立教181年12月19日終講

弓ヶ濱 森川 道弘

立教百八十一年十一月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめてをどり			地方			役割 区分	講話	祭主				
									大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	中村義太郎	中村道徳			吉岡壽	海外伝道講習会	岡崎真一	大教会長様	
武内正美	佐藤香苗	上原順子	赤木素志	谷内伸自	森本忠平	佐藤道孝	笹尾正治	山野弘実	今川佐智子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	中村義太郎	中村道徳	吉岡壽	海外伝道講習会	岡崎真一	大教会長様	
内海安子	三島照美	森本富美子	虫明立生	今川昌彦	高木昭祥	杉原博之	中島誠治	武内清明	高木孝子	谷内美知子	岡崎豊子	上原浩浩	三島涉	中村剛	渡邊隆夫	森本忠善	田中隆之	春季大祭講話	指図方	賛者	
室悦子	山野なつ	中村初美	三代温生	田林久嗣	岡田誠	山田敏教	浅野明教	内海史郎	吉岡八恵	横山小智榮	門脇加津	横山逸郎	吉岡誠一郎	門脇元教	上原繁次	佐藤真孝	岡崎真一	大教会長様	佐藤道孝	内海史郎	赤木素志



今日は久しぶりに朝からの雨で外の仕事が出来ず、自分の溜まった用事をしようと思った。洗濯、次の仕事の見積もり、甥っ子との食事の約束、姉の家パンを取りに、バイト料の支払い、病院におたすけなどなど。でもこの日一番しなければならぬのが「よりみち」の原稿作成である。書くのが苦手な自分には一番頭を悩ます作業だ。ある先生から会長になる前に言われた事がふと頭をよぎった。「自分のために時間や頭を使わず、人の為に身体や心を使いなさい。そうすれば自分の悩みは少なくなる。」会長職十年を過ぎて少しだけ分かった様な気がする。今日も一日元氣な事に感謝して人とのふれあいを大切に通らせて頂きたい。(む)



・原・稿・募・集・

内容 ①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字数 1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先 下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377
 FAX：0865-66-1314
 メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。





第24回

笠岡支部総会

婦人会長様御臨席

立教182年6月23日(日) 午前10時～午後3時

- おつとめ
- 式典
- アトラクション
- 模擬店
- 福引き